2018年7月発行

☆ 里親Ｍ（藤沢地区）

３つの夢

『「里親活動をしてみたい」と私が妻の前で突然切り出したのがY君を迎え入れることになったきっかけでした。』

その話をした時、妻が目を丸くして驚いた表情は私の脳裏に焼き付いている。自分で資料を集めて２人で何度も話し合った末に妻の了承を得た。児童相談所に申し込みに行った時、男性からの提案は珍しいと言われた。

里親研修を受け、約半年後に「是非、会ってほしい子がいる。」と委託の話が来た。乳児院を訪れると年下の子とも仲よく遊んでいる屈託のない笑顔の男の子がいた。その子がY君だった。断る理由は皆無だった。それから６か月交流したのち、Y君は我が家に来てくれた。飛び上がるほど嬉しかった。夢が叶ったのだ。委託当初は「寝ない」、「食べない」、「歯磨きしない」等のないないづくし。私が帰宅後、歯磨きさせて抱っこして寝かしつける日々でした。それも時間がたつと少しずつ治まってきましたが、歯磨きだけはまだ何かしら理由を付けてやろうとしません。なので、私のもう１つの夢は自ら歯磨きができるようになることです。

仕事の日は僅かな時間しか顔を合わすことができない。朝は食事の支度程度、夜帰るとすでに夢の中である事が多い。私が休みの日はY君の通園の付き添いや室内でフィギア遊びやY君が考えた遊びを一緒にする。外で遊ぶ時は公園に行って遊具で遊んだり探検ごっこしたりして夕方まで遊ぶ。とにかく、本気で遊ぶ事にしているので私も疲れ果て寝かしつける時に先に寝てしまうことも度々。年中までは出来なかった逆上がりや登り棒を最後まで自分で上り、得意満面の顔を見ると成長したなと嬉しく思う瞬間である。昨年は何度もプールに連れて行ったが水中メガネを付けながらも顔を浸けることが出来なかった。今年になってはじめて行った時、一緒に潜ることが出来たのだ。一度できると自信になったのか私が疲れてしまう程、何度も何度も潜って遊んだ。自転車はまだ補助輪付きでしか乗れない。今年中には補助輪無しで乗れるようになって家族３人でサイクリングに行くのが私の更なる夢です。

☆ 里親Ｇ（藤沢地区）

正直親が望んでいたような育て方出来たか？全てでないが、時の較差大きかった。一方的に押し付ける事なく、理解し合えて。

半世紀以上の差、導く孫と「ジイ」ちゃんの絆。ただ寝起き、食事だけならそれは何に、二足、三足の鞋をしっかり履き、後返る事忘れて気付くと私は八十才。孫は高三、よくここ迄 頑張れた。次に向けた目標自分に負けない挑戦者の姿そこに有る。成長の過程 女の子だ、悩んだろう。親だったら助言出来る事。側にはヂイちゃんだ。気遣う私、意を決した勇気に私は祝って上げた。孫育て自分の子供とは違う。何が然れど、ここ迄出来た。

今「清新」年を重ねる間ない。家庭、暦上の行事は大切、親と違っても包丁の入れ方で旨味は解る。孫は小四から中二の間に大変苦しんだ、悩む、気弱な面に付け入られた。

「いとぐるま　第9号」より

特別エッセイ

里子養育は Give and Take?

里親T(大和地区)

少し前のことになりますが、ある記事を読んでいてある思いが心に浮かびあがりました。それは、里子養育は「Give and Take」という考え方についてです。私たちは里親として子どもを育てますが、実子であっても簡単ではない子育てが、家庭を奪われた子どもを育てる里子の養育となると、その課題は重く、複雑でしばしば簡単な解決とはなりません。

そんな、里子の養育において私たち里親がモティベーションをもって養育を継続できるのはなぜでしょうか。私が遭遇した記事では、そこにこの「Give and Take」が登場します。このことばに表現されていたのは、養育の過程で里親はいろいろと尽くす(Give)一方で、子どもの成長の姿を見るという喜びを与えてくれること、里親も成長できること、里親としての自己肯定感を得られること、里親活動を通して社会貢献ができる生きがいを提供してくれること(Take)があるからという内容でした。

なるほどと思えなくもありません。子育てをとおして親も成長できるという考え方はしばしば耳にすることですが、私は少し違う考え方を持っています。現代社会には「Give and Take」の価値観が溢れています。与えたものに対して見返りを期待する。それは、自己肯定感や社会貢献ができる生きがいなど目には見えないものであっても、里親の活動でtakeを期待するのだとすれば、上で書いたように「Give and Take」の価値観の枠内にあるものです。私たちはtakeするものが無ければ子育てをしないのでしょうか。里子を養育しないのでしょうか。子育ては「Give and Take」の価値観をはるかに超越したところにあるように思うのです。

里親になった動機が、親や家庭を必要とする子どものためになりたくて、子育てをとおして社会貢献がしたくてという方々も、その表面の動機ではなくその奥にある思いに目を向けると、そこにあるのは子どもを愛する代償を要求しない「愛」だと思います。それは、自己実現、自己肯定感などとは大きく違うものです。

確かに、子育てによって大人も成長します。里子の笑顔を見たり、ありがとうということばを聞く時、とても幸福な気分になります。しかし、これは与えたことに対する対価ではなく、takeするものでもなく、子どもから里親に与えられる無償の贈り物です。大人側の自己実現、自己肯定感、満足感などということとは関係のない、一方的に与えられるプレゼントではないでしょうか。しかし、これも受け取り方を知らない大人にはそれが受け取るべき対価に見えたり、このプレゼントがまったく見えません。最近の子どもに関する悲しい報道を見ているとそんな例が数多くあるような気がします。

私たち里親は実子であっても、里子であっても子どものお誕生日をお祝いします。「お誕生日、おめでとう」と言って子どもの誕生日をお祝いする時に、その意味するところは、あなたが何かをしてくれたから、何かができるようになったから何かを言ってくれたからではありません。ましてや、「親として成長できたから、私の自己肯定感を高めてくれたから、里親として社会貢献ができるという生きがいをくれたから、あなたの誕生日をお祝いします」ではないはずです。「お誕生日おめでとう」は「あなたが生まれてきてくれたことを感謝します。あなたがいてくれて、また一つ年齢を重ねることが素晴らしいことだから、そして私と一緒にいてくれることに感謝し、あなたの誕生日をお祝いします」と言っていることと同じだと思います。

世の中には「Give and Take」では計れないものもたくさんあります。子育てのように、いくらgiveしても、見返り(take)を得られないものもたくさんあります。ひょっとして神様は「Give and Take」よりもっと大切なものがあることを大人に教えるために、私たちに子育てを与えてくれているのかも知れません。